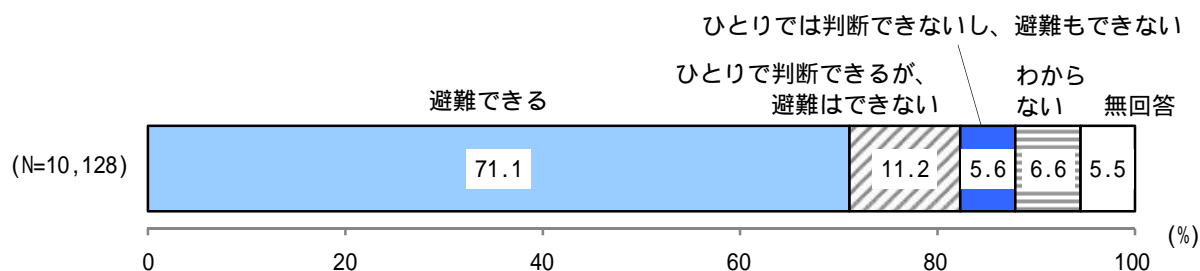


問38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か

あなたは、災害時や緊急時にひとりで避難することができますか（ はひとつ）

【図38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か】

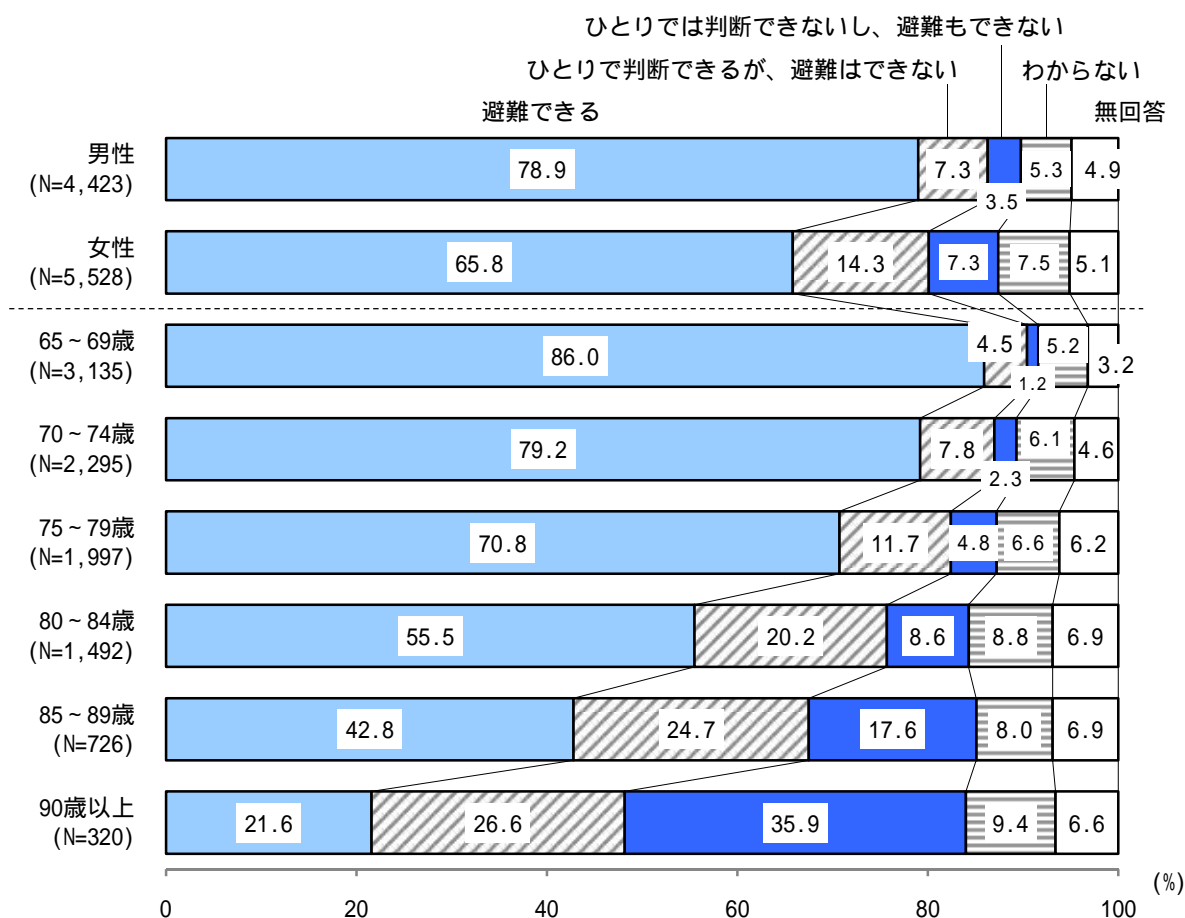


災害・緊急時の避難については、「避難できる」との回答が71.1%で最も多い。一方、「ひとりで判断できるが、避難はできない」と「ひとりでは判断できないし、避難もできない」をあわせた『避難できない』は、16.8%となっている。(図38)

性別でみると、女性の方が「避難できる」割合が少なく、困難を感じている傾向がみられる。

年齢別では、高齢になるほど災害時・緊急時に困難を感じている傾向が高くなっている。(図38-a)

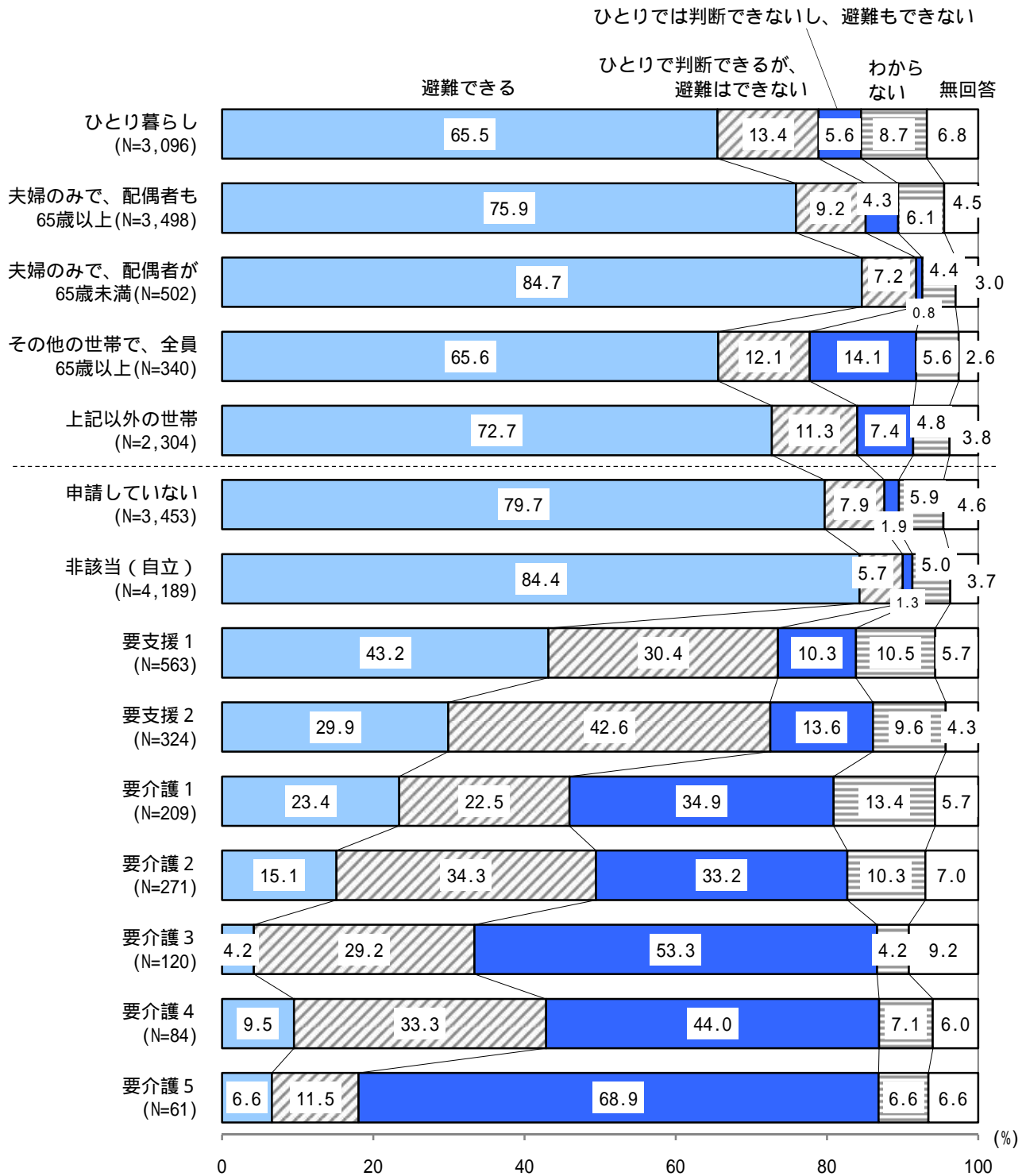
【図38-a 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か（性別・年齢別）】



世帯状況別で見ると、「避難できる」は“夫婦のみで、配偶者が65歳未満”の世帯が84.7%で最も高く、『避難できない』は“その他の世帯で、全員65歳以上”の世帯が26.2%で最も高い。

介護度別で見ると、「避難できる」は非該当（自立）が84.4%で最も高く、要介護3～5では1割に満たない。（図38-b）

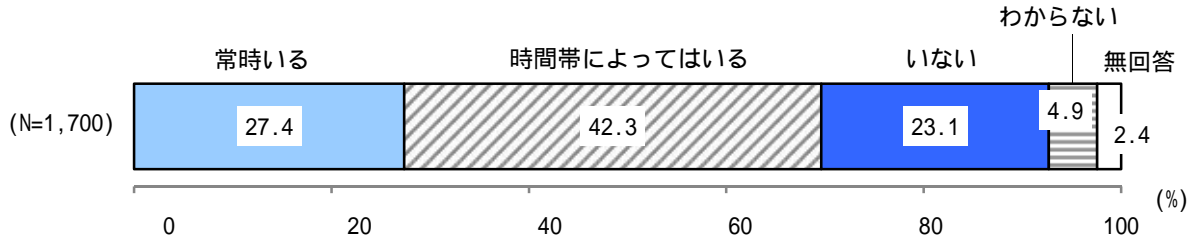
【図38-b 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か（世帯状況別・介護度別）】



問38-1 手助けを頼める人の有無

【問38で「2～3」とお答えの方におうかがいします。
 災害時や緊急時に、手助けを頼める人（同居者を含む）はいますか。（はひとつ）

【図38-1 手助けを頼める人の有無】

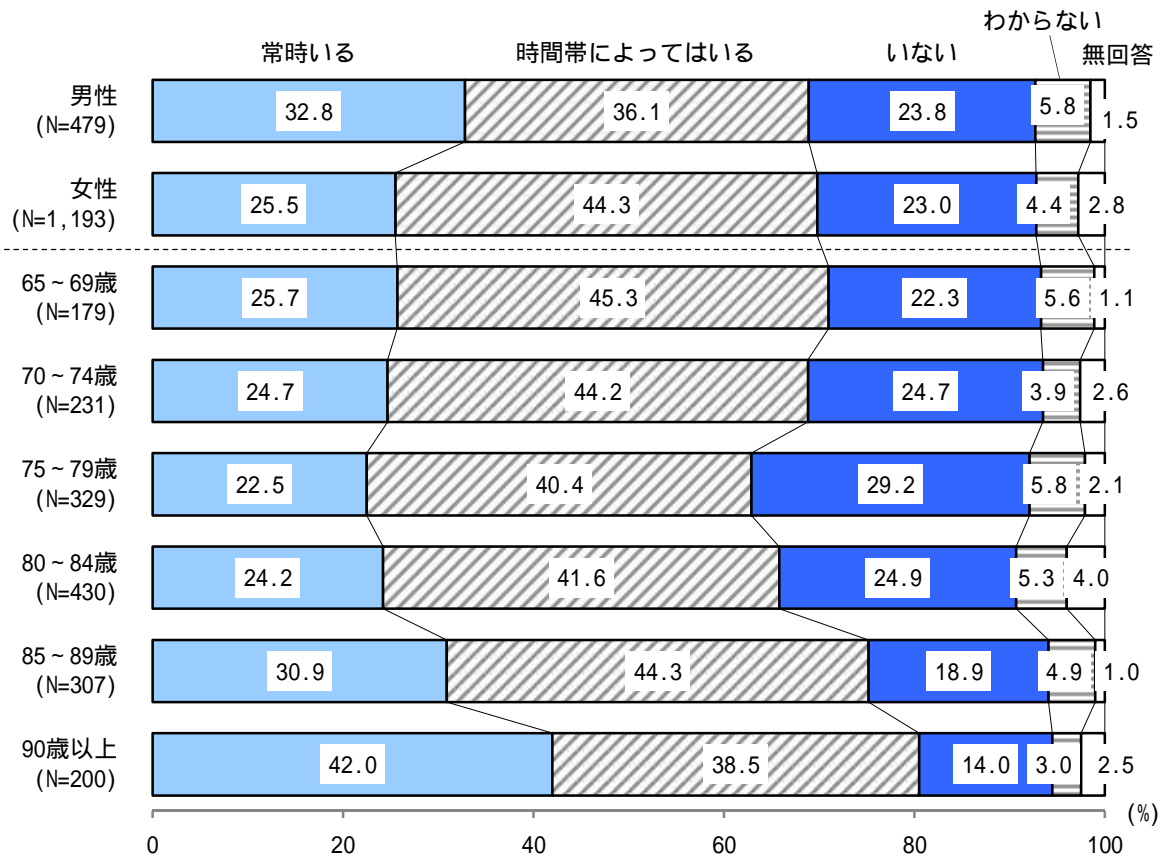


ひとりで避難ができないと回答した人に、手助けを頼める人の有無についてたずねると、「常時いる」(27.4%)と「時間帯によってはいる」(42.3%)をあわせた『手助けを頼める人がいる』割合は69.7%となっている。(図38-1)

性別でみると、男女で同様の傾向となっており、大きな差はみられない。

年齢別でみると、『手助けを頼める人がいる』割合は75～79歳(62.9%)で最も低く、80歳以降年齢が上がるほど割合が高くなり、90歳以上が80.5%で最も高くなっている。(図38-1-a)

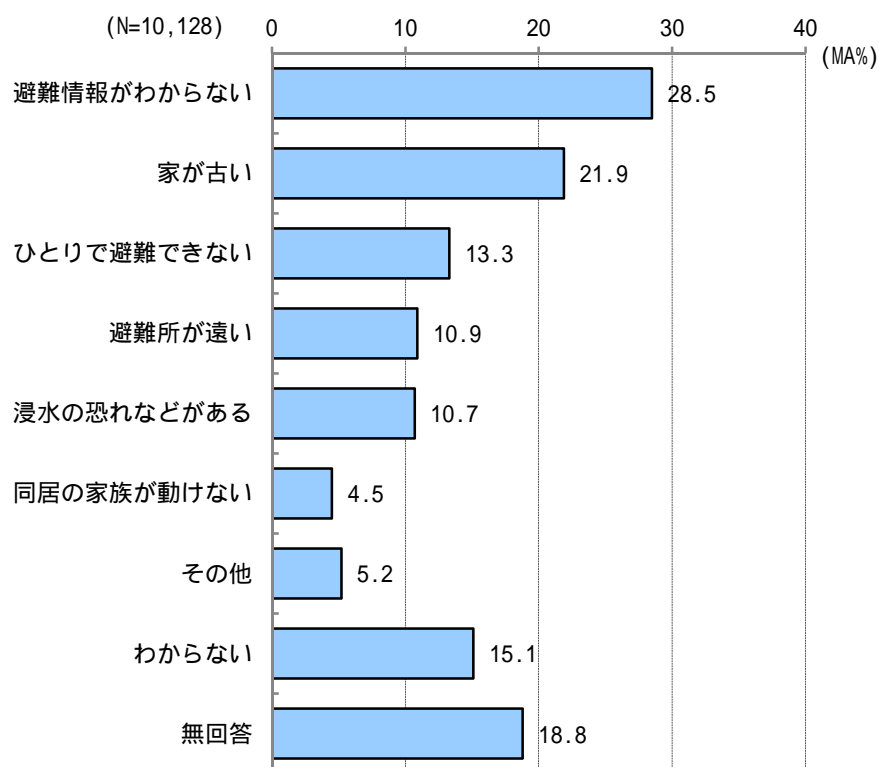
【図38-1-a 手助けを頼める人の有無(性別・年齢別)】



問39 災害時の心配事

あなたは、災害が起きた時の心配事がありますか。(はいいくつでも)

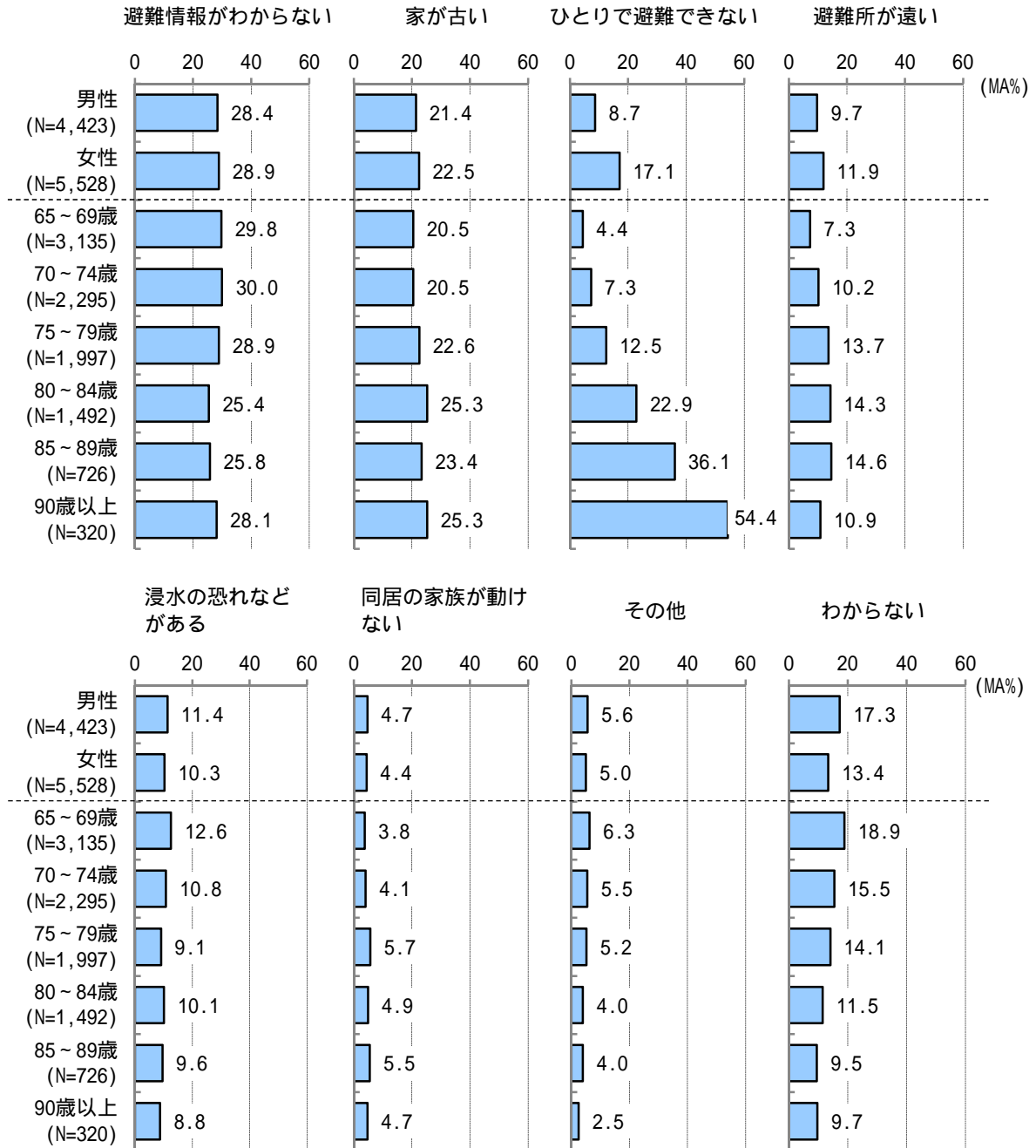
【図39 災害時の心配事】



災害時の心配事については、「避難情報がわからない」が28.5%で最も多く、次いで「家が古い」(21.9%)、「ひとりで避難できない」(13.3%)となっている。(図39)

性別で見ると、「ひとりで避難できない」の回答割合は女性の方が高くなっている。
 年齢別で見ると、「ひとりで避難できない」の回答割合は高齢になるほど高くなっている。
 (図39-a)

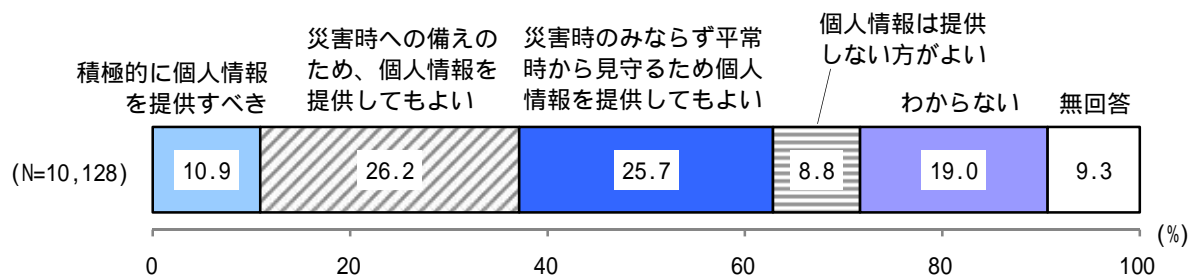
【図39-a 災害時の心配事(性別・年齢別)】



問40 個人情報の地域団体等への提供についての考え

あなたは、市が保有する高齢者の個人情報（氏名・住所など）を、町会や地域活動協議会など地域の見守り活動を行う組織に提供することについて、どのように感じますか。（はひとつ）

【図40 個人情報の地域団体等への提供についての考え】



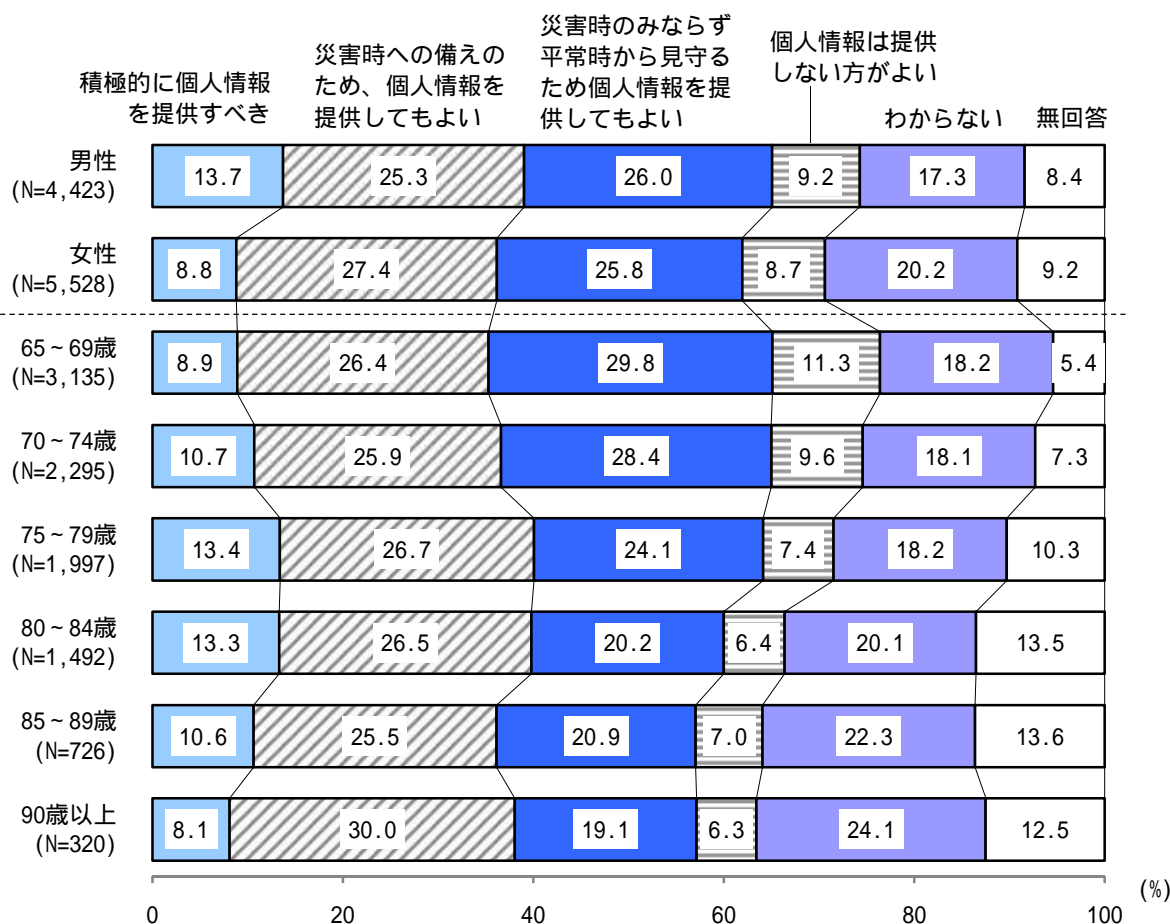
個人情報の提供については、「災害時への備えのため、個人情報を提供してもよい」が26.2%と最も多い。

「積極的に個人情報を提供すべき」(10.9%)、「災害時への備えのため、個人情報を提供してもよい」(26.2%)、「災害時のみならず平常時から見守るため個人情報を提供してもよい」とをあわせた『個人情報を提供してもよい』との回答が6割以上となっている。(図40)

性別でみると、『個人情報を提供してもよい』の回答割合は男性の方が高くなっている。

年齢別でみると、『個人情報を提供してもよい』の回答割合は65～69歳が最も高く、65～84歳までは6割台となっている。(図40-a)

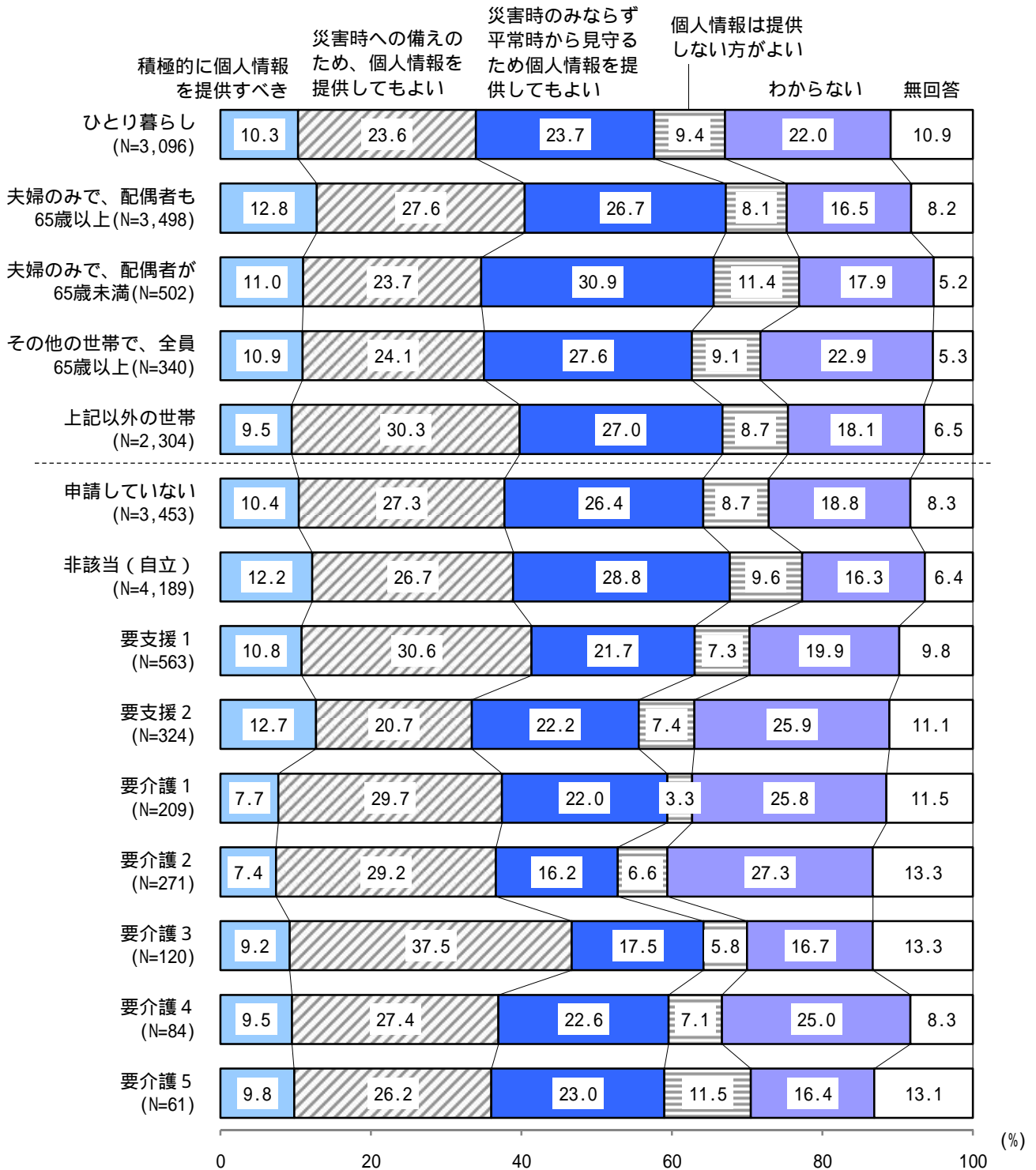
【図40-a 個人情報の地域団体等への提供についての考え（性別・年齢別）】



世帯状況別でみると、『個人情報を提供してもよい』の回答割合は“ひとり暮らし”世帯以外では6割を超えている。

介護度別でみると、『個人情報を提供してもよい』の回答割合は非該当（自立）が67.7%で最も高く、どの区分でも『個人情報を提供してもよい』の回答割合が5割を超えている。（図40-b）

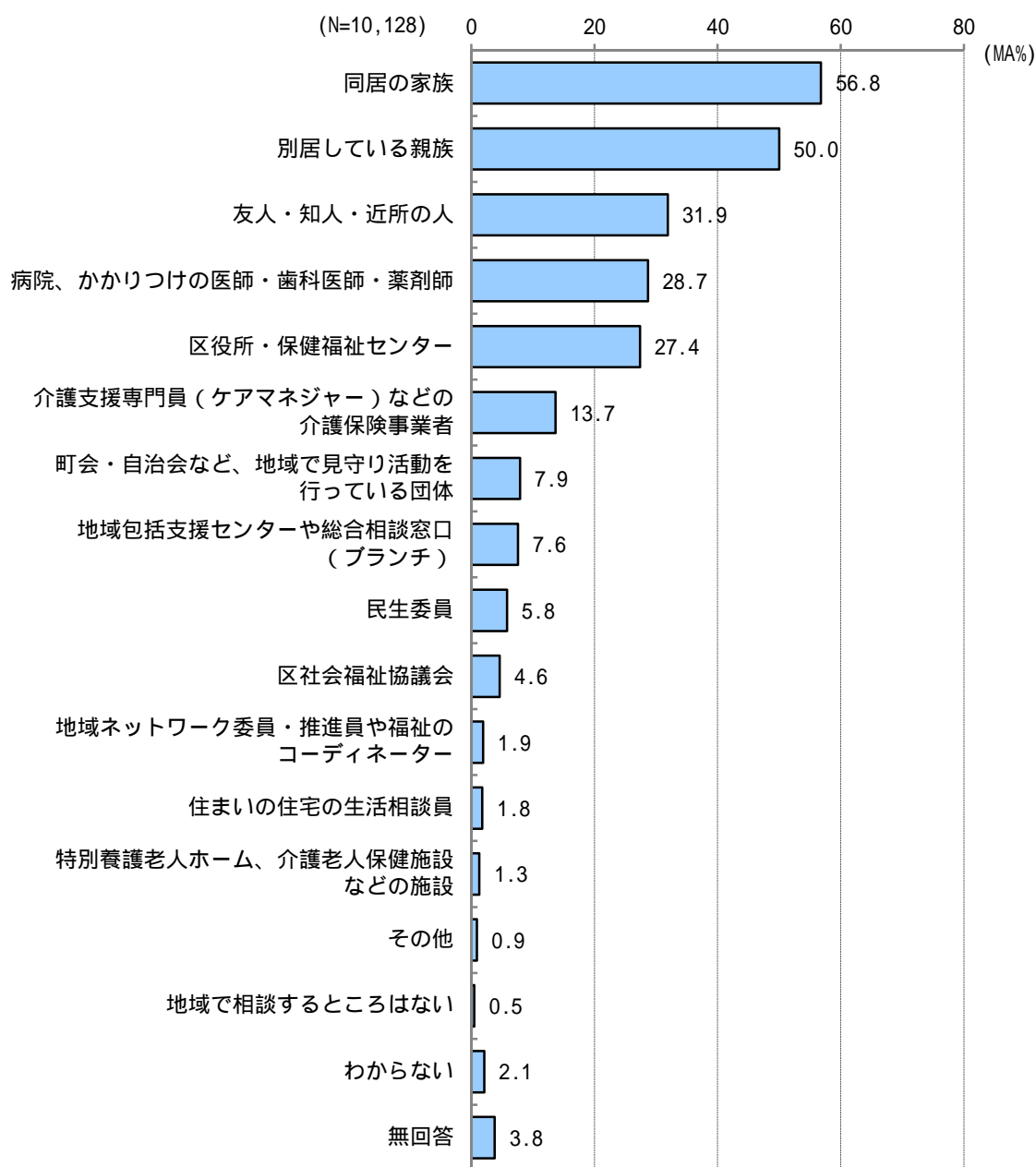
【図40-b 個人情報の地域団体等への提供についての考え（世帯状況別・介護度別）】



問41 困ったときの相談相手

あなたは、困ったときにどちらに相談されますか。(はいいくつでも)

【図41 困ったときの相談相手】

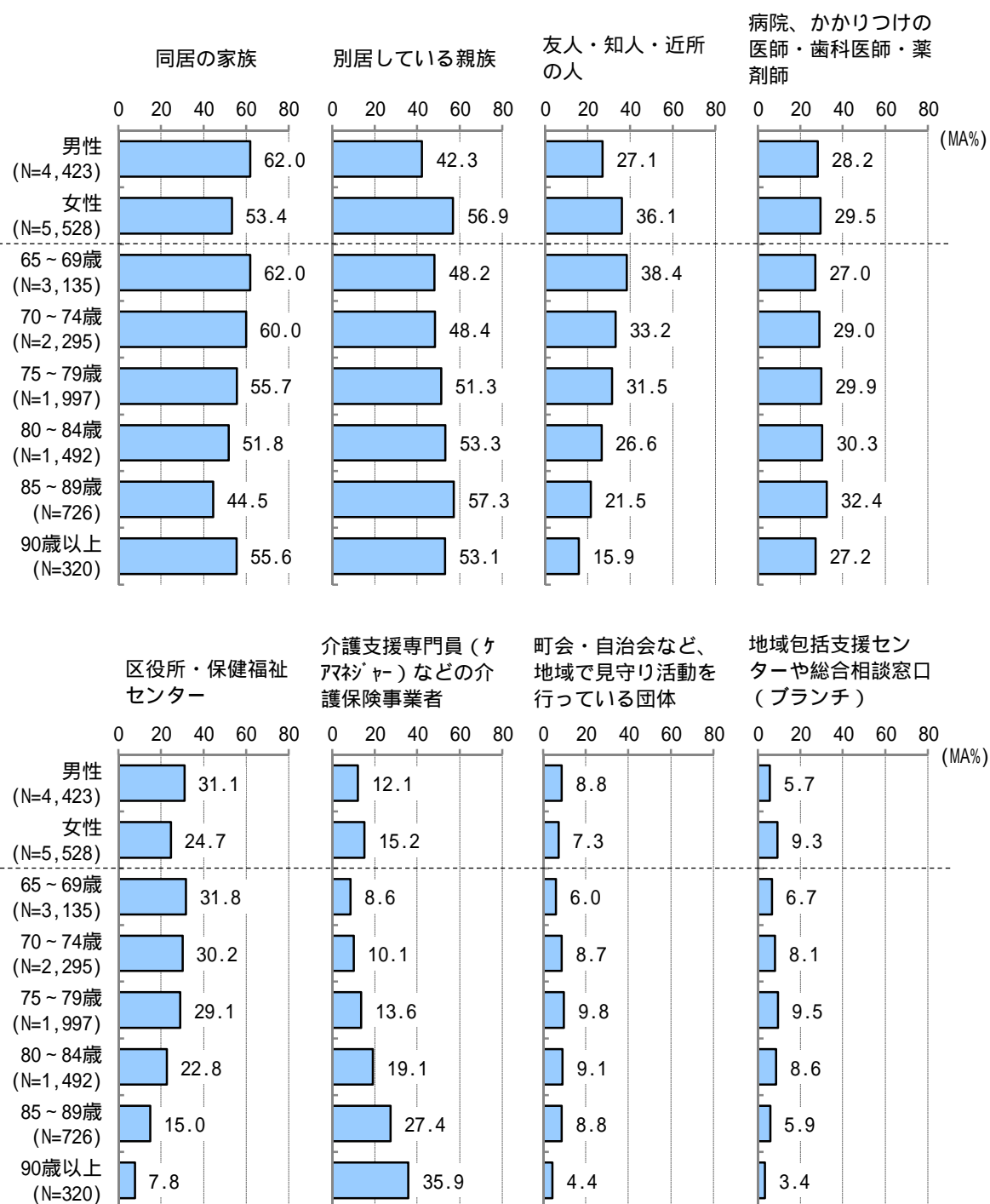


困った時の相談相手については、「同居の家族」が56.8%で最も多く、次いで「別居している親族」(50.0%)、「友人・知人・近所の人」(31.9%)となっている。(図41)

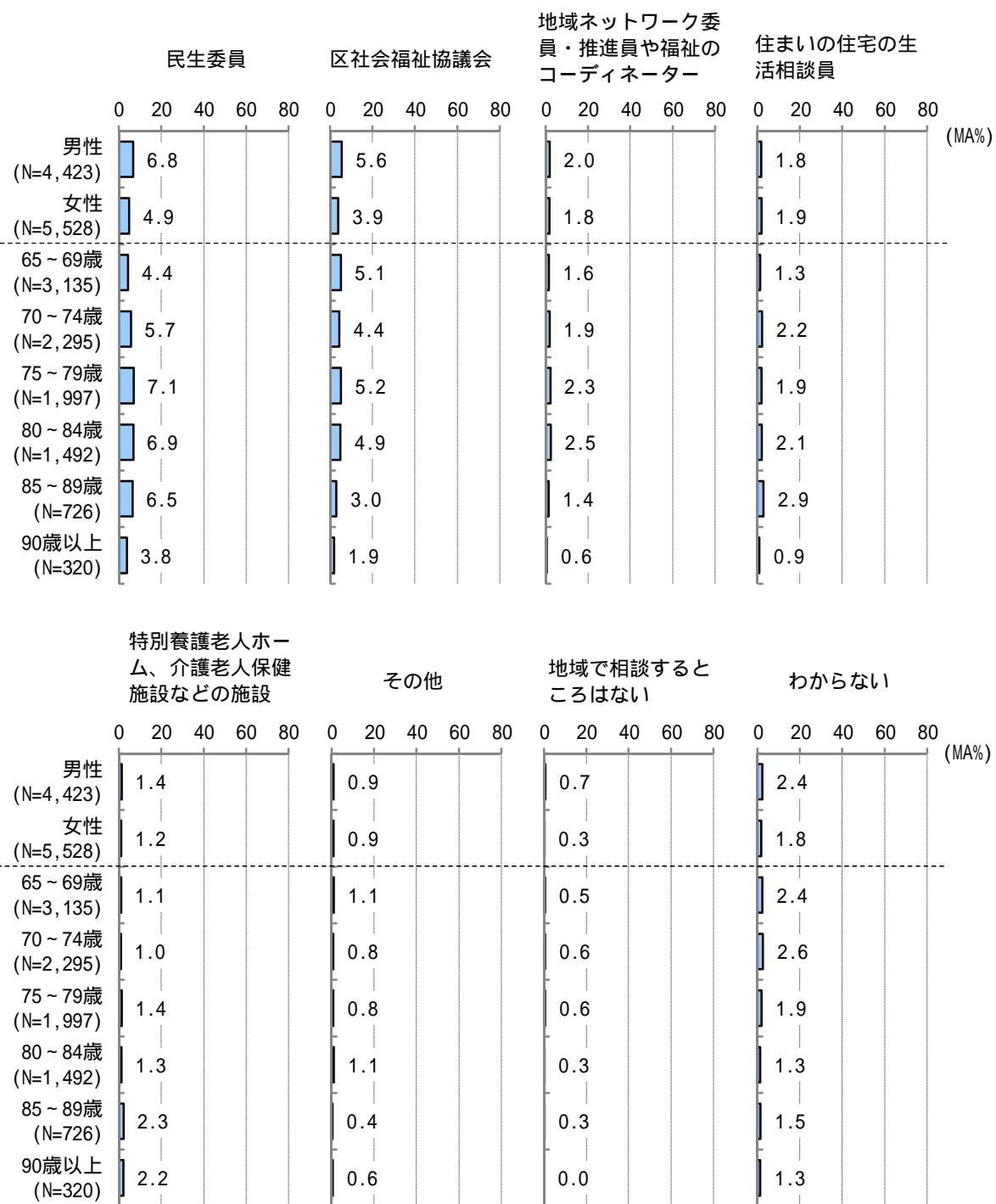
性別で見ると、「同居の家族」、「区役所・保健福祉センター」の回答割合は男性の方が高く、「別居している親族」、「友人・知人・近所の人」は女性の方が特に高くなっている。

年齢別で見ると、「友人・知人・近所の人」、「区役所・保健福祉センター」の回答割合は高齢になるほど低く、「介護支援専門員(ケアマネジャー)などの介護保険事業者」は高齢になるほど高くなっている。(図41-a)

【図41-a 困ったときの相談相手(性別・年齢別)】



【図41-a 困ったときの相談相手（性別・年齢別）】



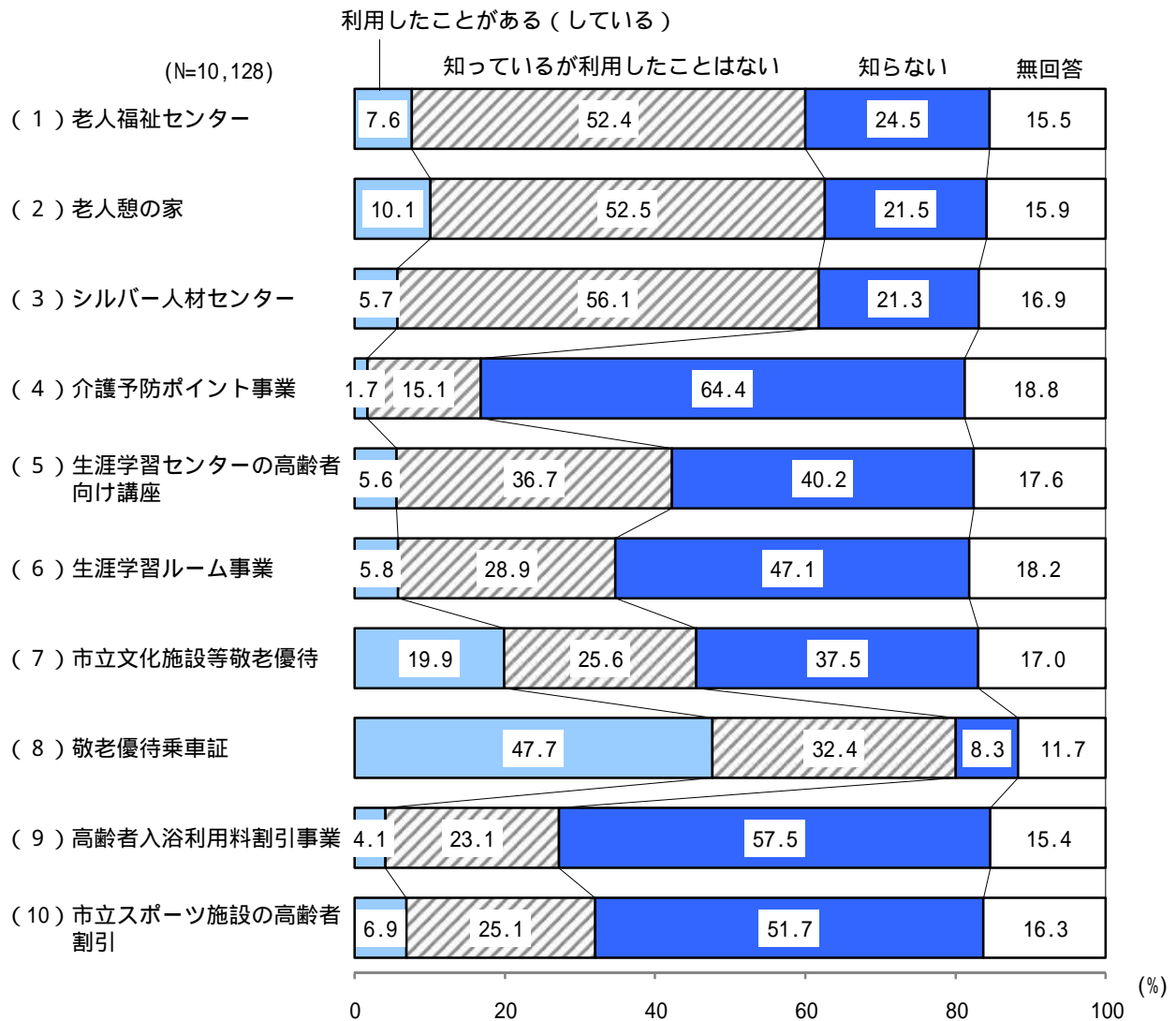
(8) 高齢者施策全般

問42 高齢者向け施設や事業の利用状況・意向

次の施設や事業について、あなたの利用状況や意向をお答えください。(は状況・意向欄にそれぞれひとつずつ)

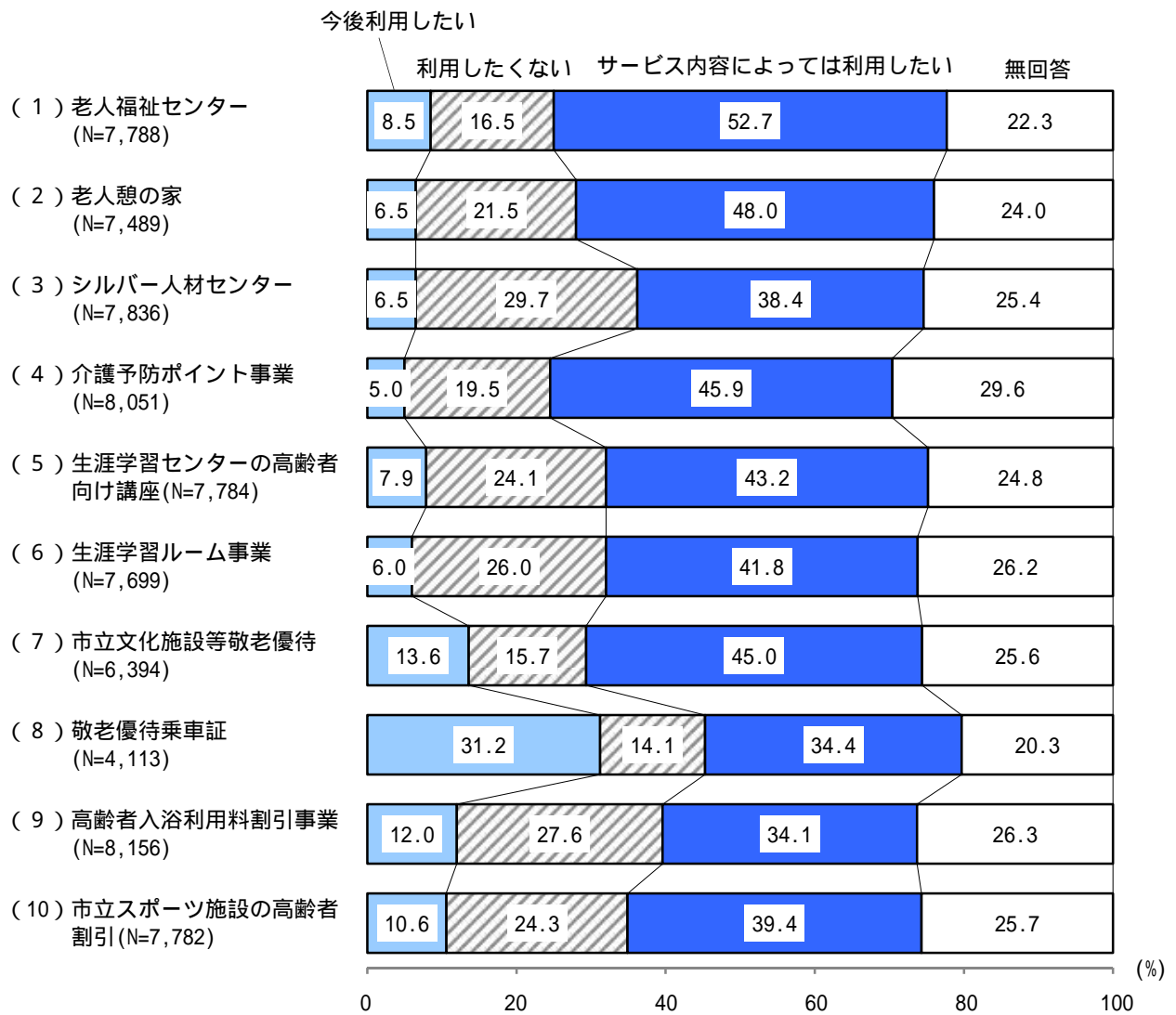
なお、利用状況欄で「2 知っているが利用していない」「3 知らない」を選択された方は、利用(参加)意向欄もお答えください。

【図42 高齢者向け施設や事業の利用状況】



高齢者向け施設や事業の利用状況は、“(8)敬老優待乗車証”について「利用したことがある(している)」(47.7%)の回答割合が他と比べ大幅に高くなっている。他の施設や事業については、「知っているが利用したことはない」との回答が多いが、「知らない」との回答は、“(4)介護予防ポイント事業”(64.4%)が最も高くなっている。(図42)

【図42 高齢者向け施設や事業の利用意向】



高齢者向け施設や事業の利用意向についても、「(8)敬老優待乗車証」の「今後利用したい」(31.2%)の回答割合が他と比べて大幅に高くなっている。その他の事業については、「サービス内容によっては利用したい」との回答が比較的多い。(図42)

高齢者向け施設や事業の利用状況について性別でみると、「利用したことがある(している)」の回答割合は“(3)シルバー人材センター”を除いた項目で女性の方が高く、“(3)シルバー人材センター”のみ「知らない」は女性の方が高くなっている。

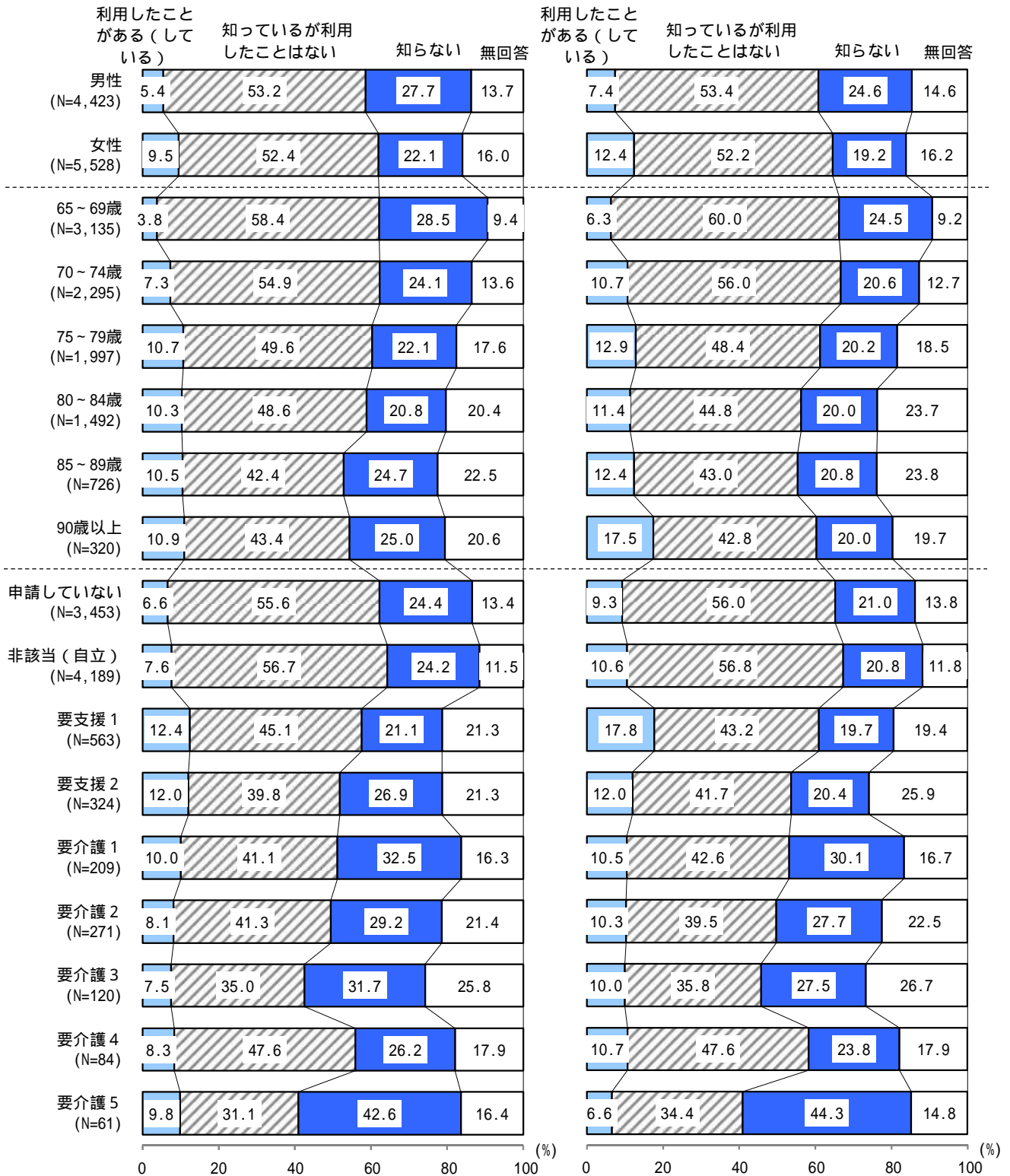
年齢別でみると、「知らない」の回答割合は“(1)老人福祉センター”、“(2)老人憩の家”、“(4)介護予防ポイント事業”、“(7)市立文化施設等敬老優待”、“(8)敬老優待乗車証”、“(9)高齢者入浴利用料割引事業”では65～69歳が最も高くなっている。

介護度別でみると、「利用したことがある(している)」の回答割合は、概ね介護度が高くなるほど低くなっている。(図42 -a ~)

【図42 -a 高齢者向け施設や事業の利用状況（性別・年齢別・介護度別）】

(1) 老人福祉センター

(2) 老人憩の家



【図42 -a 高齢者向け施設や事業の利用状況（性別・年齢別・介護度別）】

(3) シルバー人材センター

(4) 介護予防ポイント事業

